

新たな社会のしくみづくりに不可欠なユニバーサルデザイン。それと並び重要な課題がエコロジーだ。資源の枯渇や地球温暖化、低炭素化への対応、生物の多様性を守ることなど、環境問題への対応のため、社会システムを転換させる時期に来ている。もちろん個人のライフスタイルや企業活動にも大きな影響を与えている。

本誌では、創刊10年を記念して、創刊以来のテーマであった「日本型ユニバーサルデザイン」の具体的な実践例をシリーズで紹介していく。

日本型ユニバーサルデザインは「共生」といえる。共生、つまり「ともに生きる」には、日本人の基層にある自然との共生の思想にも共通するものがある。

オフィスをはじめとした各分野の空間づくり、環境づくりを行っている株式会社イトーキは、1999年からユニバーサルデザインとエコデザインを企業経営の基本理念にしてコーポレートメッセージとして「イートーキ・ユーデコスタイル」を掲げている。そ

の2つの重要性を広く社会に伝えるとともに、製品開発、プランニング、サービスなど企業活動のすべてにおいて「ユーデコスタイル」を実践している。

そして今年、イトーキでは領域を拡大し「新ユーデコスタイル」を打ち出した。

特集では、イトーキの掲げる「新ユーデコスタイル」の考え方から具体的なデザインやサービスまでを紹介する。

編集統括 梶本久夫

編集 仲田裕紀子、中矢岳志、今枝りか、赤根勝史

豊かな緑や四季折々の花が楽しめる新宿御苑。豊かに茂る樹木は1万本を越える。苑内のイギリス式庭園には広大なユリノキが高くそびえる。人の手によって作り出された人工の森は、計画時に180年後の姿を描いてつくられたという。ユニバーサルデザインの観点からの整備も進められ、多くの人たちの憩いの場になっている

特集・1

UD先進企業—イトーキ
人も生き生き、地球も生き生き

新ユーデコスタイル宣言

1

INTERVIEW

松井 正 さん

株式会社イトーキ 代表取締役社長

聞き手

梶本久夫

本誌編集発行人

人も生き生き、 地球も生き生き 自然と人が共生する 「新ユーデコスタイル」で、 リーディング カンパニーをめざす

ビジネスは現場主義と誠意・誠心・誠心お客様に接することによって成立する。

松井正イトーキ社長の信条は明快だ。

現場主義と誠意・誠心。

この言葉を心の時代といわれる21世紀的に展開すると

「新ユーデコスタイル」になるという。

新ユーデコスタイルとは、地球規模の行動規範。

イトーキの次世代オフィス環境づくりのコンセプトでもある。

顧客第一主義とプロアクティブ

梶本 松井社長は、ユニバーサルデザインをどのようにお考えですか。

松井 ユニバーサルデザインは、使い手側からものごとを発想していくデザイン手法と考えます。これはビジネスにおける基本姿勢と重なります。ビジネスの世界では常にお客様の立場に身を置き、お客様の視点から物事を考えます。つまり、顧客第一主義というものです。

梶本 顧客第一主義とは「言うは易し」ですが、具体的に開かれていますか。

松井 情報が溢れかえっている現代において、さまざまなビジネスの手法や、考え方が存在しますが、私は、最終的にはお客様との対一の誠意ある対話によって結果は導かれるものと考えます。ごまかしがあつたらビジネスは継続しません。常にお客様の立場で解決をはかる姿勢がビジネ

スの基本です。お使いいただく方のことを第一に考える。これはユニバーサルデザインの思想に通じるものではないでしょうか。

梶本 私もそう思います。ユニバーサルデザインは、あらゆるデザインのプラットフォームのような考え方だと思えます。そこに個々のニーズを付加して完成させるのです。しかし「これが絶対に正しい」というデザインの手法ではない。成長するデザインともいわれます。

松井 イトーキは、ユニバーサルデザインとエコデザインを融合させて「ユーデコスタイル」というメッセージを10年前に掲げました。企業は社会における公器でなければいけないわけですから、収益事業を行いながら、社会をいい方向に導くという責任があります。

われわれはこのたび、改めてこのユーデコスタイルをさらに発展させて「新ユーデコスタイル」を打ち出しました。ユニバー



社員のやる気を高め、創造性を高めるオフィス提案する東京ショールーム



人と人とのコミュニケーションが新しいアイデアや知を生み出す

サルデザインも、エコデザインもすでに社会では一般的になっていますが、その中でプロアクティブな視点といえますか、時代の「今」と「これから」をより強く打ち出していくための重要な要素であると考えています。

100年に一度の変革のチャンス

梶本 多くの企業がこれまで以上に「いい社会を創る」社会のために役立つ」というメッセージを前面に打ち出しています。

松井 企業の存在価値は、お客様や株主様、従業員などさまざまなステークホルダーの元でなっています。ですから、事業収益だけが企業価値ではないと考えます。社会全体のことを考えれば、企業の社会的責任はおのずと明確になります。このことを忘れ、自らのことだけしか考えなくなってしまうたら、市場で生き残っていきけないと思います。

まつい ただし●1946年大阪生まれ。1969年関西大学経済学部卒業、旧イトーキ入社。東京法人販売部長、九州支店長、オフィス事業部営業本部西日本支社長、常務執行役員マーケティング本部長、専務執行役員を経て2009年3月より現職

特集 新ユーデコスタイル宣言

2

新ユーデコスタイルの考え方

イトーキが今年、打ち出した「新ユーデコスタイル」。ここでは新ユーデコスタイルがどのような経緯で誕生したかを紹介したい。

ユーデコスタイルとは、ユニバーサルデザイン(UD)とエコデザイン(ECO)を掛け合わせた造語だ。イトーキは、オフィスデザインをはじめ、さまざまな空間づくりをしている。オフィスは働く人たちが長時間過ごす場所であり、学校や図書館、病院、福祉施設、庁舎などは、多くの人が利用する場所だ。そこにいる人たちを第一に考え、「人が主役の環境づくり」を実践してきた。家具や空間設計にも人間工学を取り入れら

れ、安全や快適性が追求された。それがユニバーサルデザインへと展開していく。

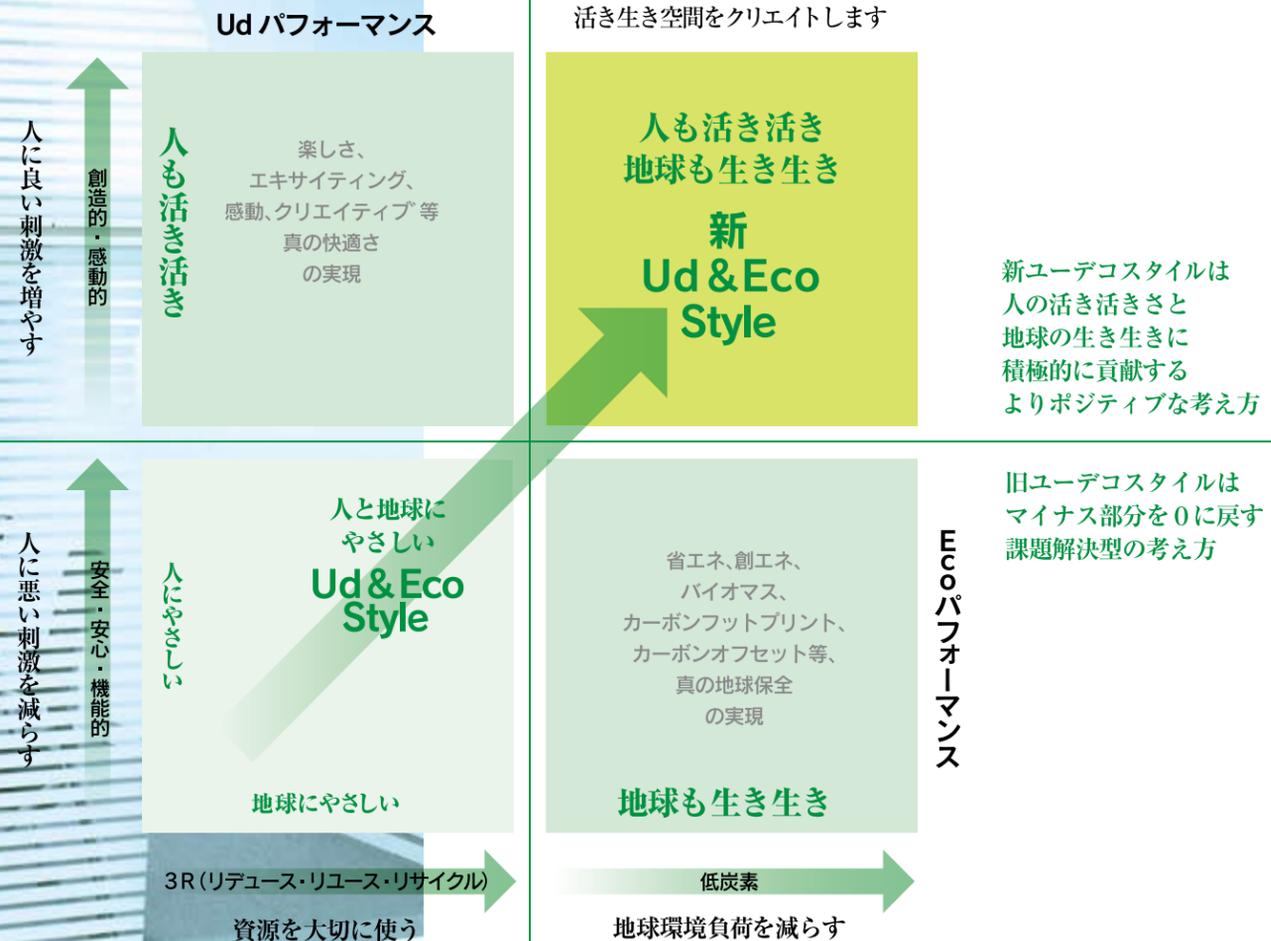
1997年に開催された地球温暖化防止京都会議で、温室効果ガスの削減が義務付けられ、企業活動にも環境経営が求められるようになる。その2年後の1999年にイトーキは「人にも地球にもやさしい共創社会の実現」をめざして「Ud & Eco style(ユーデコスタイル)」を掲げた。

自社基準の「ユーデコガイドライン」を設け、環境配慮設計やユニバーサルデザイン製品の開発を行う。さらに自社のオフィスで製品や空間デザインのモニタリングをしながら、顧客やユーザーの声を製品開発に生かしていく。「ユーデコスタイル」のコンセプトで開発されたオフィスチェアはグッドデザイン金賞をはじめ、数々の賞を受賞した。

10年目を迎えたユーデコスタイルは、「人と地球にやさしい」から「人も生き生き、地球も生き生き」と、よりアクティブに進化して新ユーデコスタイルになった。イトーキが顧客、地域、そして地球を「いきいき」させることを経営方針にしていることがうかがえる。

新ユーデコスタイルの概念

イトーキはお客様の
活き生き空間をクリエイトします



特集 新ユーデコスタイル
宣言

5

ユーデコプロダクト

こころ・からだ・地球に
ストレスのない
ものづくりをめざして

イトーキのユーデコスタイルを理解するうえで最もわかりやすいのは、やはり形となる製品。ここでは、製品開発の基本となっているユーデコプロダクトガイドラインと代表的なプロダクトを紹介する。

イトーキは、2005年にユーデコスタイルの考え方を取り入れたプロダクトガイドラインを策定、「できるだけ多くの人が快適に使えるように配慮すること」「持続可能なものづくりを考慮すること」を基本にこれまで製品開発を行ってきた。特にユニバーサルデザイン面では、専門機関とも積極的に連携しながらさまざまな調査・研究を実施。こうした取り組みが一気に開花したのが「スピナーチェア」などが発売された2007年だ。

本来一つの製品ですべての人が使いやすいものができればベストだが、現実にはむずかしい。そこでイトーキでは、ユニバーサルデザインへの対応として2つのアプローチを考えたという。一つは単体製品の調節・対応機能を高めることでカバーできる人の範囲を広げる方法。多様な座り方のすべてに対応する「スピナーチェア」などが

さまざまな姿勢をサポートするチェア
スピナーチェア



実は多くのユーザーが正しい座り方をしていない。それなら、どんな座り方をしても快適なチェアをつくったら喜ばれるのではないかとそれがスピナーチェアの発想の原点だ。*チェアが人に合わせて動くという考えから、座ると自動的に座面が下がり、背もたれが前方に押し出される新機構(PSS機構とALS機構)が開発された。操作しなくても自然と背や腰が支えられ、無意識のうちに最良の着座状態が保たれる。ストレス社会といわれる今、「意識させない快適さ」はユニバーサルデザインのひとつのあり方かもしれない



取り出すカギを知らせるカギ管理機
システム
キーユニット

まだまだ多いオフィスで使われるカギ。似たような形で数多く、探すのも管理も面倒だ。カギ管理機「システムキーユニット」は、ワンタッチでオープンできる扉、取り出し可能なカギをLEDで知らせる直感的な操作が特徴。さまざまな大きさのカギを収納できるスペースを確保しながら薄型コンパクトなデザインで、設置場所を選ばない。2008年度グッドデザイン賞を受賞した機能とデザインが共存する製品だ



該当する。2つめは個々の特性に対応したさまざまなタイプをつくり、製品全体のバリエーションでカバーできる人の範囲を広げる方法。女性のために開発された「カシコチェア」や車いす利用者も使いやすい天板昇降機能を付けた「インクルードUDタイプ」などがあげられる。

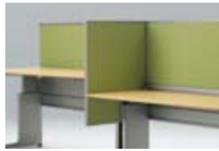
どんなに優れた技術や発想も、デザイン性、安全面、コストなどをクリアしなければ製品化はできない。さまざまな企業が「すべての人が使いやすい」UDの具現化に試行錯誤するなか、長年の実績からイトーキが導き出した1つの回答といえるだろう。

イトーキは新ユーデコスタイルに合わせて、2009年中に終了予定で現在ガイドラインの見直しを行っている。人にも地球にもストレスのないものづくりに向けてどのような取り組みが行われるのか、今後に期待したい。

体格に合わせて調整できるデスク
インクルードUDタイプ



ワークステーションで重要なのは天板(机上面)の高さ。疲れにくい作業姿勢を保つためには、チェアだけではなく天板にも体格に合わせた高さが求められる。「インクルードUDタイプ」は、650~850mmの範囲で高さ調節が可能。隣り合う天板の高さが違ってパネル等まで上下しないため、オフィスの統一感は損なわれない。高さ調節機能に目がいきがちだが、異なる高さの天板が違和感なく共存できる点も優れたユニバーサルデザインの要素といえる



扉の開閉をアシストするドア
アシスタッドドア



ユニバーサルデザインの例として自動ドアがあげられることは多いが、「アシスタッドドア」は「半自動ドア」。自動ドアのようにセンサーに機械的に反応してドアが開くのではなく、人の動きに合わせて開閉をアシストするという。まるで誰かが手をさし助けてくれるような動きが、実はセンサーを使わない半自動ドアだからできるというのが意外な発見だ。センサーが不要なリアモーターを採用することで、停電時でも手動で開けられ、コストを抑えることもできる

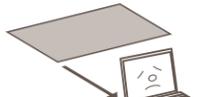
簡単・安全な新LANシステム
LANシート



ケーブルを使う一次元と無線による三次元のメリットを融合したまったく新しい二次元LANシステム。テーブルに設置したシートの上にPCを置くだけでLANが使える、電波の干渉や情報漏洩などの問題も解決し、便利さと安全性の両方を実現している。一見、オフィス家具とはかけ離れたようにも思える製品だが、これからの働きやすいオフィス、オフィスのUDを追求していくうえで情報ネットワークへの対応は不可欠であり、この取り組みに対する大きな一歩ともいえる。2008年度グッドデザイン賞受賞



簡単導入・コネクトレス
ノートPCをシート上に置くだけでLANに接続できる



セキュリティ
PCがシートから離れるとLANにつながるのを防ぐ

新ユーデコプロダクトガイドライン

Ud プロダクト認定基準	Eco プロダクト認定基準	Ud プロダクト指針	Eco プロダクト指針
イトーキの Ud プロダクト認定レベル	イトーキの Eco プロダクト認定レベル		
<p>レベル3 Ud プロダクト レベル2 Ud 配慮プロダクト② レベル1 Ud 配慮プロダクト①</p>	<p>レベル3 スーパー Eco プロダクト レベル2 Eco プロダクト② レベル1 Eco プロダクト①</p>	<p>安心 安全かつ安心であること</p> <p>からだ 身体負担が少ないこと</p> <p>感覚 感覚特性に配慮すること</p> <p>あたま 理解しやすいこと</p> <p>自由 自由度があること</p>	<p>省資源・省エネ 資源の有効利用に配慮すること</p> <p>リデュース 廃棄物・有害化学物質の排出削減に配慮すること</p> <p>リユース 製品の長寿命に配慮すること</p> <p>リサイクル 部材の再利用に配慮すること</p> <p>企業責任 社会的責任に配慮すること</p>
<p>●Ud プロダクト 想定しうるあらゆるユーザーのアクセシビリティが高い、もしくは業界トップレベルの新コンセプトを有した製品</p> <p>●UD 配慮プロダクト ①対象ユーザーに対して基本的なアクセシビリティを満たした製品(一般的なUDレベル) ②アクセシビリティのレベルが高い、もしくは新しいコンセプトの製品</p>	<p>●スーパー Eco プロダクト 業界トップレベルの新コンセプトの製品</p> <p>●Eco プロダクト ①グリーン購入法適合レベル ②エコマーク取得レベル</p>	<p>5つの指針(安心・からだ・感覚・あたま・自由)を作成した基本評価点と、追加的な Ud ポイントの有無やそのレベルの評価を合わせて、Ud 配慮レベルを評価・認定している。新ガイドラインでは、新・ユーデコスタイルで追加された概念(創造性、快適性など)も別軸で評価項目に追加</p>	<p>エコマークやグリーン購入法などの外部の基準を元にした評価基準により、環境配慮レベルを評価・認定している。新ガイドラインでは、従来の3Rや有害化学物質の削減に加え、カーボンフットプリントなどのCO₂排出量削減に配慮する内容を項目に追加</p>